

ホームページのご紹介

<http://www.spaceshower.net/>

当社ホームページでは、株主・投資家の皆様に向けて、企業情報やIR情報をはじめとして、事業活動やその動向を紹介しております。過去の各種情報の掲載はもちろんのこと、最新の情報を随時更新しております。よりタイムリーな情報をご覧頂き、当社へのご理解を深めて頂くためにも、ぜひ、ご利用ください。



企業情報

最新のプレスリリースや社長メッセージ、当社グループの経営方針や事業概要等、当社へのご理解を深めて頂くための情報を掲載しております。その他、「コーポレート・ガバナンス」「コンプライアンス」「社会・環境活動(CSR)」を掲載しております。



IR情報(メール配信登録画面)

最新のIRニュースや決算資料、財務指標等を掲載しております。またタイムリーなIR情報をお届けするために最新IRニュースのメール配信をおこなっております。ぜひ、ご利用ください。

[メール配信登録用URL] http://www.spaceshower.net/ir/c_14.html



SEP



<http://www.spaceshower.net/>

証券コード: 4838

〒106-8011 東京都港区六本木3-16-35 Tel. 03-3585-3242(代表)

免責事項: 本株主通信に掲載されている予想、戦略、経営方針、目標等のうち、歴史的事実でないものは、将来の見通しに関する記述であり、これらは、現在入手可能な情報に基づく経営者の前提、計画、期待、判断等を基礎としています。これらの将来の見通しに関する記述は、様々なリスクや不確定要因の影響を受けるため、現実の結果が想定から著しく異なる可能性があります。



株主通信 第18期 中間事業報告 2011.4.1 ▶▶ 2011.9.30



Business Flow

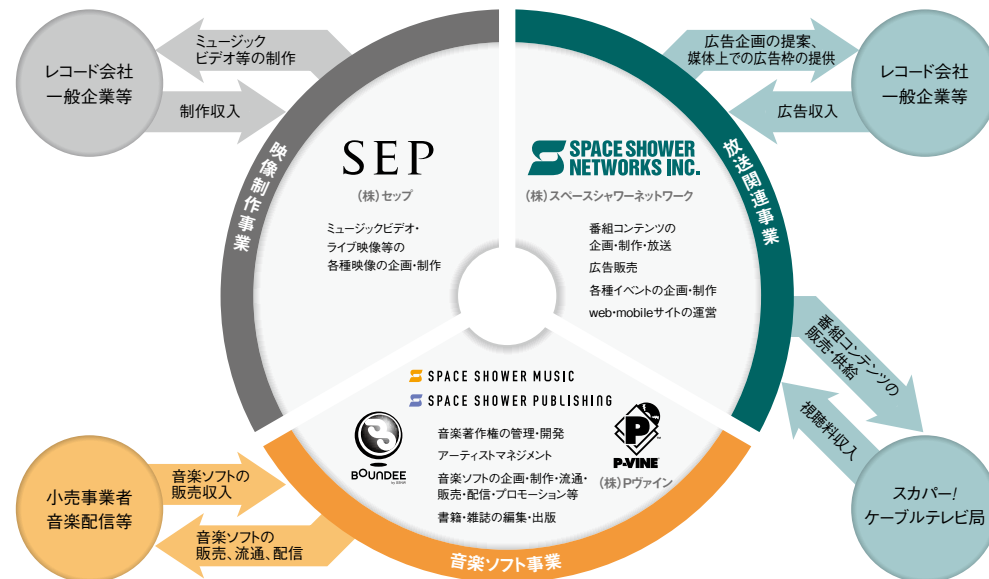
ビジネス・フロー

音楽ビジネスを多角的に事業展開することで、“感動”を届けるコンテンツサプライヤーを目指しています。

音楽をベースに時代の臨場感を表現し、人の心を動かすこと。私たちは、いわゆる“感動”を届けることを生業としています。

音楽を楽しむ手段は、テクノロジーの進化やライフスタイルの変化とともに移り変わってきていますが、レコードがCDに変わっても、CDが楽曲データに移行しても、私たちが音楽を聴き、涙し、興奮し、そして歓喜することに変わりはありません。

私たちは常に、時代にマッチした手段で音楽ユーザーに良質の音楽を、感動をお届けしてまいります。



グループ再編により音楽エンタテインメント業界での独自のポジション獲得を目指します。

Q1 当中間期の業績について
総括をお願いします。

東日本大震災に続いて、かつてない円高と欧州債務危機に端を発する欧米諸国の経済の低迷が影響し、日本経済は大きな打撃を被り、景気の先行きは依然として不透明な状況にあります。

当社においても、震災被災地域での番組視聴契約の減少やライブハウス「WWW」での公演延期や中止、円高により安価になった輸入盤に(株)ブルース・インターアクションズの音楽ソフト販売事業が圧迫される等、様々な影響を受けましたが、原価販管費の削減等の結果、期初に計画した予算を上回ることができました。

しかしながら、当中間期の決算成績は連結売上高55億6,000万円(前年同期比2.0%減)、経常利益3,800万円(同64.5%減)と残念ながらいずれも前年同期比では減少となりました。

下期においても厳しい事業環境が続くと予想されるため、引き続き新たな成長に向けた戦略事業領域の取り組みを推進していきたいと考えています。

代表取締役社長 清水 英明

Top Interview

トップ・インタビュー

Contents

1. ビジネス・フロー 2. トップ・インタビュー 3. 財務ハイライト 4. セグメント別概況
5. 財務ハイライト 6. セグメント別概況
7. トピックス 8. 中間連結財務諸表 9. 中間連結財務諸表 10. インフォメーション

Q2 連結子会社2社の経営統合によるグループ再編の目的についてお話しください。

音楽ソフトの流通・販売事業を生業とするバウンディ(株)と、音楽ソフトの企画・制作から著作権管理、書籍出版をおこなっている(株)ブルース・インターアクションズを本年10月1日付けで当社へと経営統合し、放送関連事業を主とするスペースシャワー事業部門、旧バウンディをベースとしたディストリビューション&ディベロップメント事業部門(以下、D&D事業部門)、旧ブルース・インターアクションズを主としたミュージック&パブリッシング事業部門(以下、M&P事業部門)へと発展的に体制を改めました。

流通や配信を中心としたディストリビューション全般やスマートフォン向けアプリの開発等デジタル化・ネットワーク化への対応

についてはD&D事業部門に、音楽出版や書籍出版等著作権をはじめとした権利ビジネスはM&P事業部門へと、それぞれ集約することで各事業部門の注力分野を明確に打ち出し、よりダイナミックかつスピーディな事業展開を可能にするのが狙いです。

来年4月以降に予定している人材交流により、部門間の連動を一層強化し、それぞれが目指す方向を共有することにより、グループ一丸となって事業展開を図っていきたく考えています。

また、重複機能の統合、外注業務の内製化を図ることで経営の効率化にも繋げていきたく考えています。

Q4 今後、デジタル化・ネットワーク化で大きく変化する音楽エンタテインメント業界において、貴社はどのようなポジションを目指されるのでしょうか？

スマートフォンやタブレット端末といった新しいデバイスの普及やライフスタイルの変化に合わせて、音楽の楽しみ方はより多様化の傾向が強まってくると考えています。

当社ではこうした社会の変化に対する取り組みの一環として、KDDI(株)との連携により、本年7月からスマートフォンにライブ映像をリアルタイムで配信する「SPACE SHOWER LIVE Ch.」を実験的にサービス開始いたしました。

当社の強みは、オリジナル番組コンテンツの制作で培った

ノウハウとアーティストとの深い信頼関係にあります。いま、流通を中心に音楽エンタテインメント業界の構造が大きく変わる中で、川上のコンテンツの開発や権利を獲得することによりライツホルダーとなり、中間のアーカイブ及びディストリビューションによりマルチユース化し、更には川下にあたるサービスプロバイダーとしての出口まで、一貫したサービスを構築することが出来れば、当社の強みが更に活き、業界内で独自のポジションを獲得することが出来ると考えています。

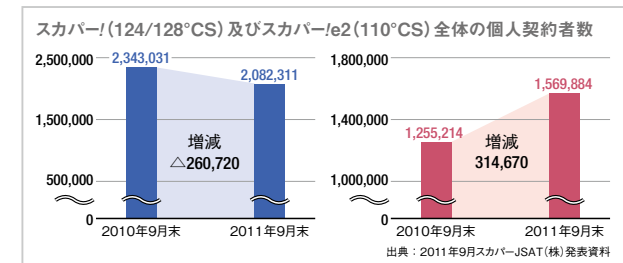
Q3 主力事業である放送関連事業の今後の見通しについてお話しください。

放送関連事業における広告収入は残念ながら減少が続いていますが、インフラ営業戦略やマーケットのニーズに合った編成及びプロモーションの強化により、有料放送収入を伸ばす余地はまだ十分にあると考えています。

本年4月におこなった「スペースシャワーTV」と「100%ヒット! スペースシャワーTVプラス」の2チャンネル体制化も、そのための施策です。

コアな音楽ファン層をメインターゲットとしたスペースシャワーTVに対し、スペースシャワーTVプラスはヒット曲をメインに、より幅広いマスターゲートに番組編成をおこなっています。

また、先日のプレスリリースでも発表させて頂きましたが、来年4月よりスペースシャワーTVプラスをスカパー!e2プラットフォームで放送開始する予定です。



スカパー!e2は現在も堅調に契約件数を伸ばしている成長余力を持つプラットフォームであり、そこに、マスをターゲットにした番組を送り出すことで、より多くのお客様を掴むことが出来ると考えています。

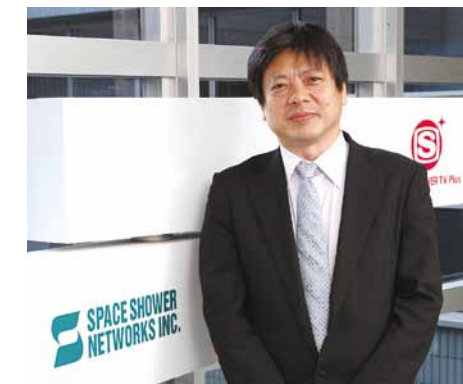
今後は、更に有料放送収入を増加させるため、「スペースシャワーTV」のHD化を推進し他の音楽チャンネルとの差別化を図っていきます。また、「100%ヒット! スペースシャワーTVプラス」においては、スカパー!e2での放送開始を足がかりに全国のCATV局との契約拡大を目指してまいります。

Q5 株主の皆様メッセージをお願いします。

厳しい事業環境においても積極的な「攻め」の姿勢で音楽エンタテインメント業界の変化に対応し、更なる成長の実現を目標に経営に取り組んでまいります。

日々変化を見せる音楽エンタテインメント業界の中で当社グループが存在感を高めるためには、KDDI(株)のようにビジネスパートナーとの提携が今後必要になるかもしれません。そうした判断も含めて、フレキシブルかつスピーディな経営戦略・事業戦略を推進してまいります。

株主の皆様におかれましては、引き続きご支援のほど、よろしくお願い申し上げます。



代表取締役社長 清水英明

財務ハイライト 中間 Financial Highlights

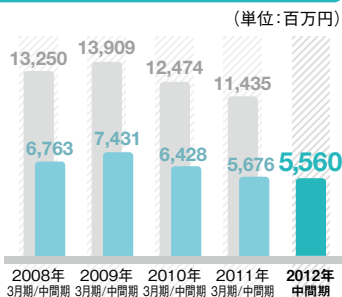
■ 通期 ■ 中間期

売上高

2012年3月期(中間期)

5,560

百万円

前期(2011/3)
11,435百万円

2011年3月期(中間期)

5,676

百万円

2.0%DOWN

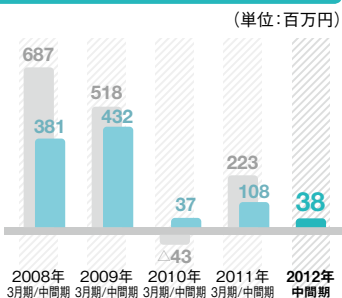
音楽ソフト事業のCD・DVDパッケージ売上において前年同期のようなヒット作品がなかったこと、及び放送関連事業において、減少傾向にある「スカパー!」の売上を「スカパー!e2」の売上増分で補えず、前年同期比で売上減となりました。

経常利益

2012年3月期(中間期)

38

百万円

前期(2011/3)
223百万円

2011年3月期(中間期)

108

百万円

64.5%DOWN

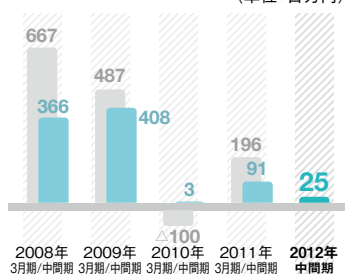
営業利益の減少に伴い、経常利益も前年同期比で減少しております。

営業利益

2012年3月期(中間期)

25

百万円

前期(2011/3)
196百万円

2011年3月期(中間期)

91

百万円

72.0%DOWN

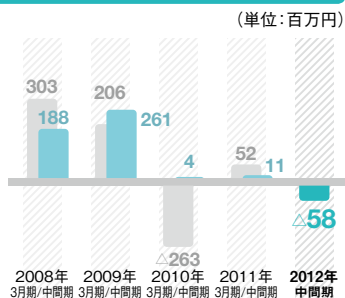
音楽ソフト事業における減収や、放送関連事業におけるスカパー!売上、イベント売上の減収、及び昨年11月にオープンしたライブハウス「WWW」が未だ収益貢献するまでには到っていないこと等により、営業利益は前年同期比で減少となりました。

中間(当期)純利益

2012年3月期(中間期)

△58

百万円

前期(2011/3)
52百万円

2011年3月期(中間期)

11

百万円

69百万円

子会社の経営統合に伴う組織再編と不採算事業の見直しをおこなったことに伴い、子会社株式ののれん償却や固定資産の減損といった特別損失を計上いたしました。これにより、当四半期純損益は前年同期比で減少となっております。

Segment Review

セグメント別概況

当社グループは「放送関連事業」「映像制作事業」及び「音楽ソフト事業」の3つに事業セグメントを区分しております。

「放送関連事業」では、音楽専門チャンネル「スペースシャワー-TV」及び「100%ヒッツ! スペースシャワー-TV プラス」をスカパー!/やケーブルテレビ局等に提供するとともに、放送に関連する音楽イベントの主催等をおこなっております。

「映像制作事業」では、ミュージックビデオやライブ映像等の各種映像作品の企画・受託制作をおこなっております。

「音楽ソフト事業」では、音楽ソフトの企画・制作及び流通を中心に、音楽著作権の管理・開発や、音楽専門誌・書籍の編集及び出版等をおこなっております。

放送関連事業

(有料放送チャンネルに関する事業)



売上高

2,777

百万円

セグメント損益

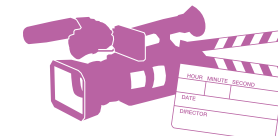
181

百万円

「スカパー!e2」及びブロードバンド系プラットフォーム経由の加入者は伸びているものの、「スカパー!」の加入者は引き続き減少いたしました。また昨年11月にオープンしたライブハウス「WWW」は稼働率上昇の兆しはあるものの当期間における利益貢献は叶いませんでした。これらの影響から、売上高は前年同期比で18百万円減少(同0.7%減)し、セグメント損益は前年同期比61百万円減少(同25.2%減)となっております。

映像制作事業

(ミュージックビデオ等の制作に関する事業)



売上高

429

百万円

セグメント損益

2

百万円

東日本大震災の影響によるCDの発売延期に伴い、ミュージックビデオの制作先送りが一部発生しましたが、その後積極的な営業をおこない、状況は持ち直し、結果として、売上高は前年同期比82百万円増(同23.8%増)となりました。また前年度において不採算部門の廃止をしたこと等により人件費等が減少し、セグメント損益は、前年同期比で38百万円増加し黒字を達成しました。

音楽ソフト事業

(CD・DVDや配信コンテンツの流通に関する事業)



売上高

2,353

百万円

セグメント損益

△147

百万円

CD・DVDパッケージにおいて前年同期に発売された「DAISHI DANCE」のような大型作品がなかったこと等により、売上高が前年同期比180百万円減収(同7.1%減)したこと、また書籍出版において計上基準を改めたこと等により追加で引当金の一括計上があり、セグメント損益は、前年同期比で49百万円減益となりました。

戦略事業領域での取り組みを本格化すべく

バウンディ(株)と(株)ブルース・インターアクションズを 経営統合いたしました。

当社には4つの事業会社でしたが、音楽ソフトの流通・販売等ディストリビューションを担うバウンディ(株)と、音楽ソフトの企画・制作や音楽著作権の開発等をおこなう(株)ブルース・インターアクションズを、本年10月1日付で当社へと経営統合いたしました。

上記2社を当社に内包することで、重複機能の効率化、グループ間の機能連結の強化、グループ機能の再配置によりデジタル化・ネットワーク化の進展に対応した戦略事業領域での取り組みを本格化することが狙いです。

音楽ソフトの流通や音楽配信等のディストリビューション全般やスマートフォン向けアプリの開発等デジタル化・ネットワーク化の対応については、旧バウンディ(株)をベースとしたディストリビューション&

ディベロップメント事業部門へと集約することにより多角的な戦略を狙いとしております。

旧(株)ブルース・インターアクションズを主にしたミュージック&パブリッシング事業部門では、音楽出版や書籍出版等、著作権をはじめとしたコンテンツライツ機能を集中させ、権利ビジネスの強化が狙いとなっております。

音楽ビジネスにおける川上「コンテンツホルダー」から、川中「デジタルコンテンツ流通ソリューション、D/B」、様々なプラットフォームにコンテンツを供給する川下「サービスプロバイダー」までを担い、グループ一丸となり今後の音楽ビジネスの中で存在感を示していけるよう取り組んでまいります。



BOUNDEE
by SKW

SPACE SHOWER
NETWORKS INC.

SPACE SHOWER PUBLISHING
A Division of SPACE SHOWER NETWORKS INC.

SPACE SHOWER MUSIC
A Division of SPACE SHOWER NETWORKS INC.

トピックス

Topics

100%ヒッツ!スペースシャワーTV プラスが スカパー!e2での放送を来春開始予定!

当社は、「スペースシャワーTV」と「100%ヒッツ! スペースシャワーTV プラス」の音楽2チャンネルを運営しておりますが、今後も成長が期待できる東経110度CS放送プラットフォーム(スカパー!e2)上においては、スペースシャワーTVの有料放送サービスをおこなうに留まっております。その為、当社としてはあらゆる角度からスペースシャワーTVプラスのスカパー!e2参入の可能性を検討してまいりましたが、今般、同帯域において委託放送免許を有する(株)シーエス日本との間で、同チャンネルを番組提供することで基本合意いたしました。

スカパー!e2はスカパー!(東経124/128度CS放送プラットフォーム)と比較し、加入手続きや視聴環境整備

の簡易さから、マスのターゲット層における加入者増が今後も期待されておりますし、スペースシャワーTVプラスは新旧多くのヒット曲をメインに選曲し、幅広い視聴者をターゲットにしております。

プラットフォームとチャンネル編成の相乗効果で、より多くのユーザーを生み出し収益力の向上とスペースシャワーブランドを更に浸透させることを狙いとしております。

※スカパー!e2の視聴には別途ご契約が必要となります。



KDDI(株)との協業により、

「SPACE SHOWER LIVE Ch.」がスタート!



スマートフォンやタブレット端末の爆発的普及並びにWi-Fi等の通信回線の拡充により、私たちが音楽を楽しむ環境は劇的な変化を遂げております。こうしてユビキタス社会が現実のものになりつつある中、ネットワーク化やマルチデバイス化に対応して、良質な音楽コンテンツをユーザーに届けていくことが私たちにとって一層重要になってきております。

こうした対応の一環として、本年7月より、KDDI(株)と連携してスマートフォン向けの音楽ライブをリアルタイムで配信するサービス「SPACE SHOWER LIVE Ch.」をスタートさせました。これは、auのサービス「LISMO WAVE」内に開設された

Wi-Fi専用チャンネルで、音楽専門チャンネル「スペースシャワーTV」が独自にセレクトした音楽ライブの映像をauのスマートフォン向けに配信するものです。都内9箇所のライブハウスのご協力のもと、普段目にする機会の少ないアーティストや音楽との出会いを遠く離れたお客様にもご覧いただける、ライブの臨場感をリアルタイムで感じいただける新しい映像サービスです。

当社では今後も、日々広がりを見せる様々な音楽ビジネスのプラットフォームの開発・整備を通じ、時代に即した形で世の中に良質な音楽を送り届けてまいります。

Consolidated Financial Statements

中間連結貸借対照表(要旨)

単位: 百万円

| 科目 | 当中間期 平成23年9月30日現在 | 前中間期 平成22年9月30日現在 | 前期 平成23年3月31日現在 |
|----------------------|----------------------|----------------------|--------------------|
| <資産の部> | | | |
| 流動資産 | 4,628 | 4,725 | 4,829 |
| 固定資産 | 1,682 | 1,770 | 1,897 |
| 有形固定資産 | 812 | 769 | 872 |
| 無形固定資産 | 327 | 390 | 377 |
| 投資その他の資産 | 542 | 610 | 647 |
| 資産合計 | 6,311 | 6,496 | 6,727 |
| <負債の部> | | | |
| 流動負債 | 1,972 | 2,189 | 2,131 |
| 固定負債 | 806 | 663 | 912 |
| 負債合計 | 2,778 | 2,853 | 3,043 |
| <純資産の部> | | | |
| 株主資本 | 3,532 | 3,643 | 3,684 |
| その他の包括利益累計額 | △ 0 | △ 0 | △ 0 |
| 純資産合計 | 3,532 | 3,642 | 3,684 |
| 負債純資産合計 | 6,311 | 6,496 | 6,727 |

(注) 1. 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。
2. 当中間期の連結子会社は4社です。

中間連結損益計算書(要旨)

単位: 百万円

| 科目 | 当中間期 平成23年4月1日から 平成23年9月30日まで | 前中間期 平成22年4月1日から 平成22年9月30日まで | 前期 平成22年4月1日から 平成23年3月31日まで |
|--------------------------|-------------------------------------|-------------------------------------|-----------------------------------|
| 売上高 | 5,560 | 5,676 | 11,435 |
| 売上総利益 | 1,365 | 1,501 | 2,889 |
| 営業利益(△損失) | 25 | 91 | 196 |
| 経常利益(△損失) | 38 | 108 | 223 |
| 税金等調整前 中間(当期)純利益(△損失) | 19 | 97 | 203 |
| 中間(当期)純利益(△損失) | △ 58 | 11 | 52 |

(注) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

中間連結キャッシュ・フロー計算書(要旨)

単位: 百万円

| 科目 | 当中間期 平成23年4月1日から 平成23年9月30日まで | 前中間期 平成22年4月1日から 平成22年9月30日まで | 前期 平成22年4月1日から 平成23年3月31日まで |
|----------------------|-------------------------------------|-------------------------------------|-----------------------------------|
| 営業活動によるキャッシュ・フロー | △ 291 | 85 | 755 |
| 投資活動によるキャッシュ・フロー | △ 27 | △ 124 | △ 543 |
| 財務活動によるキャッシュ・フロー | △ 137 | △ 120 | 112 |
| 現金及び現金同等物に係る換算差額 | △ 0 | △ 0 | △ 0 |
| 現金及び現金同等物の増減額 | △ 455 | △ 159 | 323 |
| 現金及び現金同等物の期首残高 | 2,831 | 2,507 | 2,507 |
| 現金及び現金同等物の中間期末(期末)残高 | 2,375 | 2,347 | 2,831 |

(注) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

インフォメーション
Information

会社概況

平成23年9月30日現在

| | | | | |
|------|---|---|--|--|
| 商号 | 株式会社スペースシャワーネットワーク | | | |
| 住所 | 東京都港区六本木三丁目16番35号 | | | |
| 設立 | 1996年12月24日 | | | |
| 資本金 | 17億8,905万9,052円 | | | |
| 従業員数 | 単体: 99名 連結: 211名 | | | |
| 事業内容 | 音楽専門チャンネルの企画・制作・放送、各種イベントの企画・制作、音楽権利事業、音楽ソフトの企画・制作・流通・販売等 | | | |
| 役員 | 代表取締役会長 代表取締役社長 取締役 取締役 社外取締役 社外取締役 社外取締役 社外取締役 社外取締役 | 金森 清志 清水 英明 近藤 正司 長谷川裕朗 新宮 達史 今川 聖 神山 隆 齊藤 正明 中村伊知哉 | 常勤監査役 社外監査役 社外監査役 社外監査役 執行役員 執行役員 執行役員 執行役員 | 内田 正宏 数面 浩尚 笠原 浩人 伊藤 修平 室 峰嘉 林 吉人 西村 則幸 辻 昇 |

株主アンケート結果報告

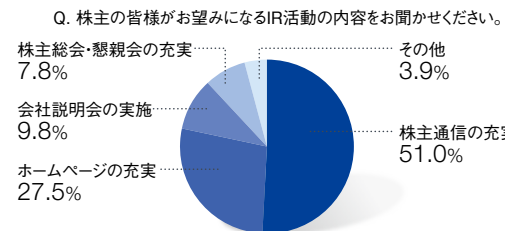
株主アンケートにご回答頂きまして誠にありがとうございます。

前回(第17期本決算)のアンケートでは「株主の皆様がご望みになるIR活動の内容をお聞かせください。」という質問において、①「株主通信の充実」、②「ホームページの充実」、③「会社説明会の実施」というご意見を頂きました。

本株主通信においては構成やデザインを刷新し、皆様がお求めの情報がすぐに分かり、見やすい誌面構成を目指しております。

頂きましたご意見に対し前向きに取り組み、皆様の利便性と親しみやすさの向上を目指し、今後のIR活動の参考とさせていただきます。

今後ともご意見を賜りますよう、よろしくお願いいたします。



株主メモ

| | |
|---------------|---|
| 事業年度 | 毎年4月1日から翌年3月31日まで |
| 定時株主総会 | 毎年6月 |
| 株主総会議決権行使の基準日 | 毎年3月31日 |
| 臨時株主総会開催の基準日 | あらかじめ公告する一定の日 |
| 期末配当の基準日 | 毎年3月31日及び中間配当の支払いをおこなうときは9月30日 |
| 株主名簿管理人 | 東京都港区芝三丁目33番1号 中央三井信託銀行株式会社 |
| 同事務取扱所 | 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 中央三井信託銀行株式会社 証券代行部 TEL:0120-78-2031 (フリーダイヤル) |

配当金のお受け取り方法

従来の配当金振込口座のご指定方法(銀行口座・ゆうちょ銀行口座(通常貯金口座)へのお振込みによるお受け取り)に加えて、あらかじめ登録した一つの預金口座で株主様の保有している全ての銘柄の配当金のお受け取りや、証券会社の口座でも配当金のお受け取りが可能です。確実に配当金をお受け取り頂くためにも、これらの振込みによる配当金のお受け取りをお勧めします。詳しくはお取引証券会社等にお問い合わせください。

株式に関する各種手続き

- 未払配当金の支払のお申し出先**
株主名簿管理人(中央三井信託銀行(株))にお申し出ください。
- 住所変更、配当金受取方法の指定等のお申し出先**
株主様の口座のある証券会社にお申し出ください。なお、証券会社に口座がないため特別口座が開設されました株主様は、特別口座の口座管理機関である中央三井信託銀行(株)にお申し出ください。
【郵便物送付先】
〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
中央三井信託銀行株式会社 証券代行部(証券代行事務センター)
【電話照会先】
0120-78-2031 (フリーダイヤル 受付時間:平日9:00~17:00)
【同取次窓口】
中央三井信託銀行株式会社 全国各支店
日本証券代行株式会社 本店及び全国各支店